

『ブラック・ジャック』、『リボンの騎士』のような名作を、アジア各地の華人社会に紹介した。

一方、1980年代になって、地元のテレビ局は多くの日本アニメを放送した。その中で、人気を集めたのは、『キャンディ・キャンディ』、『ジャングル大帝』、『鉄腕アトム』、『マクロス』等である⁵⁾。アニメのおかげで、これらの日本漫画の売れ行きも上がった。

日本の漫画とアニメは1980年代に登場したが、本当のブームが起こったのは、1990年代以降のことであった。1990年代になってから、日本漫画とアニメは香港とアメリカの漫画とアニメを追い越して、シンガポール市場の主流を占めるようになった。人気作品は、『スラムダンク』、『ドラゴン・ボール』、『らんま2分の1』、『セーラームーン』、『金田一少年の事件簿』、『GTO』等である。

1990年代のシンガポールにおける日本漫画文化の最も注目すべき点は、中国語版の本格的な出現である。シンガポールの中国語版の誕生を象徴するものが、1989年の創芸出版社による『ドラゴンボール』の出版である。その大反響によって、創芸の業務は、マレーシアからの中国語版の小売りから、シンガポールの中国語版の出版に転向した。1989年から1994年にかけて、創芸は、人気ナンバーワンの漫画本となった『ドラゴンボール』をはじめ、『ガンダム』、『スラムダンク』、『らんま2分の1』、『鉄腕アトム』、『ブラックジャック』のような作品も手がけた。当時、創芸の漫画は全て海賊版であった。その後、日本の出版社とシンガポール政府が、著作権問題について注意を払うようになったため、創芸は1994年に海賊版漫画の出版を停止し、翌年、公認の日本漫画の出版を開始した。創芸は、1995年から現在まで、シンガポール唯一の日本漫画出版社として、日本の出版社十数社から著作権を得て、二百五十種類以上の中国語版を出版している。人気の作品は、『ドラえもん』、『スラムダンク』、『セーラームーン』、『将太の寿司』、『キャプテン翼』、『金田一少年の事件簿』、『名探偵コナン』などであり、大部分のシンガポール版は、台湾版と香港版をもとにして、再編されたものであるが、日本語から、直接中国語に訳されたものは少ない。

現在、シンガポールの日本漫画市場では、台湾版が7割を占め、その他はシンガポール版、香港版およびマレーシア版となっている。マレーシア版を除いて、ほとんどは公認のものである。実際には、公認の漫画本は国外への輸出が禁止されているため、台湾版と香港版が、シンガポール市場で流通することは、合法的であるとは言えない。様々な中国語版が流通しているために、人気作品には、いくつかのバージョンがあり、その中から好きなものを選ぶことができる。

一方、日本アニメも1990年代以降流行している。テレビの放送時間は、1990年代前期の2～4時間から1990年代末の8～12時間に増加した。日本アニメはシンガポールの中国語チャンネルとレンタル市場でも優勢を占めている。

ブームの要因

日本漫画とアニメがブームになった要因には、次の4つのものがあげられる。

第一に、世界的なブームが考えられる。日本漫画とアニメは世界中に進出している。アメリカでは、『ポケモン』が人気ナンバーワンとなっており、ヨーロッパやラテンアメリカでも、日本漫画とアニメのオタクが多い。しかし、世界中で最も日本漫画とアニメを受け入れている地域は、やはりアジアである。台湾と香港は、アジアにおける日本漫画とアニメ、ブームの二大中心地である。これら二つの場所から、日本漫画とアニメはアジア各地の華人社会に広がっている。シンガポールも例外ではない。日本漫画の中国語版、アニメのビデオCDのほとんどは、日本から直接来ているのではなく、香港と台湾から来ているのである。1990年代になって著作権をとった漫画のほとんどは、印刷、翻訳、供給等、多方面にわたって大きく改善され、シンガポール読者をひきつけた。

第二に、シンガポールの漫画とアニメには、日本の作品と競争できるようなものはない。シンガポールの特色がある漫画は少ない。中国、香港、フィリピンのような独自の漫画の伝統を持つ地域でさえも、日本漫画の浸透を食い止められないという現象